



社会とのコミュニケーション

Corporate Communication
with Society

様々なコミュニケーション・ツールやメディアを活用して、
より多くの人に情報を開示するとともに、
皆様の声に真摯に耳を傾け、
私たちの進むべき道しるべとしています。

✦ 環境教育ツール

● 地球環境ブック

2002年度に小学生を対象に制作した「地球環境ブック」を、希望者に無料配布しています（教育関係者に限定、送料はご負担いただいています）。環境保全に取り組む人の活動とメッセージを中心に、「どうなるの？地球温暖化が進むと」「どうなるの？オゾン層が破壊されると」といったコラムなどで構成されています。

● Webコスモ子ども地球塾「エコネッツ」

子どもたちが楽しみながら環境についての意識を醸成していくことを目的として、また大人と一緒に環境問題について考えていただけるように構成した環境教育ウェブサイトです。実際に自然体験をしていただけるワークショップもあわせて実施していく予定です。

<http://www2.cosmo-oil.co.jp/econets/index.html>

✦ コスモ子ども地球塾

次世代を担う子どもたちの健全な育成と環境啓発を目的とした「コスモ子ども地球塾」を開催しています。

●子どものための自然アートワークショップ

2004年5月には、アーティストひびのこづえさんを講師に迎え、「子どものための自然アートワークショップ〜ワンダーハットカーニバル」を開催しました。

子どもたちが森を散策したあと、教室で「森」をテーマにしたオリジナルの帽子づくりを行いました。さらに、制作した作品を撮影して絵本風グリーティングカードにし長期入院している子どもたちへクリスマスメッセージを送りました。

プロジェクトメンバー	コスモ石油、 ワンダーアートプロダクション 杉野服飾大学短期大学部
開催場所	東京都港区 国立科学博物館付属自然教育園 杉野服飾大学短期大学部
開催日	2004年5月22日
参加者	東京都近郊の小学生30名 杉野服飾大学学生ボランティア10名 コスモ石油の社員ボランティア13名

●第12回コスモ・わくわく探検隊

2004年8月に、「コスモ子ども地球塾」の一環として、交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム「コスモ・わくわく探検隊」を実施しました。

廃材のドラム缶を利用して全員でいかだをつくり、湖でゲームを楽しんだり、燃料電池について社員が紙芝居をつくり講義を実施したのち、燃料電池自動車に試乗したり、など2泊3日のプログラムを社員ボランティアを中心に運営しました。

プロジェクトメンバー	コスモ石油 NPO法人 国際自然大学校
開催場所	群馬県新治村 にはる自然学校
開催日	2004年8月5～7日(2泊3日)
参加者	交通遺児の小学生42名 コスモ石油の社員ボランティア19名

✦ コスモ絵かきっず

家庭内暴力などにより、両親がありながら児童養護施設で暮らす子どもたちが急増しています。こうした中、コスモ石油では、子どもたちを元気づけるため、アートセラピーを導入したオリジナルのプログラム「コスモ絵かきっず」を開始しました。2004年度は、東京都杉並区の児童養護施設を対象に、年間3回のプログラムを実施。アーティストの南控控(み

なみ・くうく)さんと社員ボランティアが週末に養護施設を訪問し、子どもたちと一緒に絵を描いたり、焼き物を焼いたり、様々なプログラムを楽しみました。これは、子ども向けプログラムの主催を継続して培ってきたノウハウと、社員ボランティアの能力を活かした形で、新しい社会貢献活動を展開していきたいと考え、行動を開始したものです。

✦ コスモ石油 Voice of the earth

「人と自然のかかわりについて考える」をテーマにしたコンサートを開催しています。第3回目となる2005年3月は、「水のある風景」をテーマに、3台のマリンバ、パーカッション、詩の朗読によるコラボレーションを行いました。加藤訓子、

平子久江、木次谷紀子(マリンバ、パーカッション)、ペティート・カイ(ギター)、筒井道隆(朗読)という構成で紀尾井ホールにて開催されました。社員ボランティアがお客様のご案内を担当しました。

✦ 環境マガジン「TERRE(テール)」

「人の叡智を未来へつなぐ環境文化誌」をコンセプトに2004年3月に創刊しました。過去に生きた人たち、現代を生きる人たちの偉大な生き方や考えを「環境」という切り口でとらえ、深く掘り下げていきます。自然に学ぶ人間の叡

智を知ることで、私たちは今、何をすべきなのか、考える機会になればと思っています。

※テールとはフランス語で大地、地球を意味します。

✦ コスモ アースコンシャス アクト

コスモ石油とTOKYO FMをはじめとするJFN（全国FM放送協議会）加盟38局はパートナーシップを組んで、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ～」をテーマに、地球環境の保護と保全を全世界に呼びかけていく活動「コスモアースコンシャス アクト」を展開しています。

●アースデー・コンサート

1990年から、毎年4月22日の「アースデー」に開催しています。「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ～」のコンセプトに共感した、国内外のアーティストがコラボレーションし、地球への愛を歌いあげます。

2005年度の出演者

宮沢和史、東京スカパラダイスオーケストラ、一青窈（ひととよう）

●クリーン・キャンペーン

1年を通じて、自然と親しみながら環境活動を楽しんでいます。清掃活動以外にも、ライブ、スポーツイベントなどで、子どもから大人までが参加できるように工夫しています。

2001～2004年度の実績（累計）

会場数：164カ所
参加者：66,704名
ごみ回収量：1,091,777ℓ

✦ 愛・地球博「地球市民村」への出展

●CO₂減少が目で見える！～植物によるCO₂吸収実験～

愛・地球博「地球市民村」コスモ石油ブースでは、早稲田大学理工学術院三輪研究室と共同で、植物によるCO₂吸収実験を実施しました。

この実験は、ご来場の皆様に実際に参加していただき、植物がCO₂を吸収の様子をご自身の目でご覧いただく「体感型イベント」です。植物に光を当てることで、CO₂吸収実験装置の中心に設置されたドーム内のCO₂濃度が下がっていきます。普段は目に見えないその様子を、表示モニターにグラフとして映し出します。

他にも「コスモ石油の環境活動」をムービーやスライドショーなどで紹介しました。

「植物によるCO₂吸収・リアルタイム連続実験」開催概要

プロデュース：神津善行氏（作曲家）
監修：三輪敬之氏（早稲田大学理工学術院教授）
協力：三輪研究室（早稲田大学）

※「地球市民村」は、「愛・地球博」のテーマである「自然の叡智」「地球大交流」を具現化する博覧会協会企画事業です。「持続可能性への学び」を事業コンセプトに、国際的に活躍するNGO、NPOが一堂に集い、「自然・環境」や「国際交流・国際協力」の分野を主な軸として各自のプログラムを実施する「参加体験学習プログラム」展開の場です。



●野口健講演会&展示会

エベレストや富士山のごみに象徴される環境問題を取り上げ、皆様と一緒に考える講演会を、2002年度から全国で実施しています。野口さんがエベレスト清掃登山から持ち帰ったごみなども展示しています。

<http://www.tfm.co.jp/earth/noguchi/index.html>

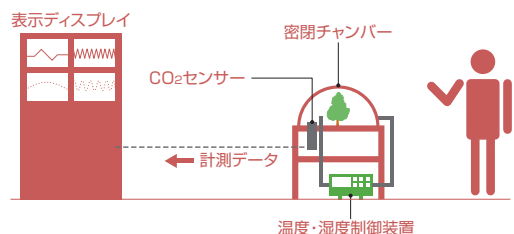
●ラジオ番組を通じて環境に関する話題を発信

FMレギュラー番組として、毎朝JFN38局のレポーターが生中継でその地域の自然環境の紹介や地元で環境保全活動に取り組まれている方へのインタビューなど、環境に関する話題を全国から発信します。

FMラジオ番組 「ずっと地球で暮らそう。」

JFN全国38局ネット
毎週月～金曜 午前6時40分～6時45分

基本システム概念図



開催期間：2005年3月25日～9月25日
（「愛・地球博」開催期間全日）

会場：「地球市民村」センターハウス内
「コスモ石油ブース」

展示会への出展

エコプロダクツ2004「株式会社リコーとの共同出展」

コスモ石油の環境への取り組みを紹介し、エコクイズやブースツアーを通して、子どもたちとともに環境とエネルギーについて考えました。

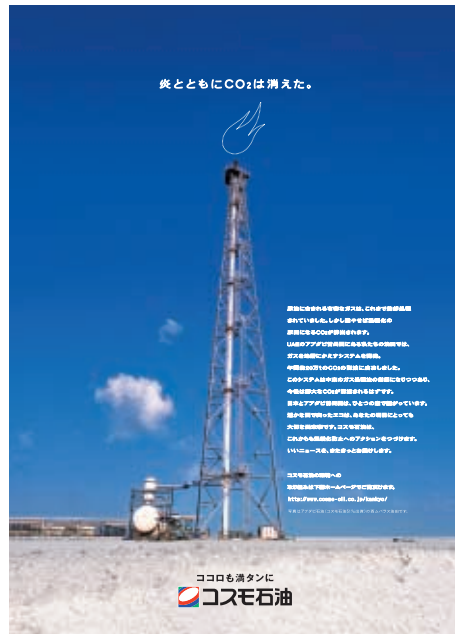
エコプロダクツへの出展は4年目になりますが、2004年度は株式会社リコーと共同ブースを設け、お互いの環境社会貢献活動を紹介しました。事業内容の異なる企業が「地球環境を守りたい」という思いを一緒に発信することで、より多くの方の関心を喚起することができました。

環境広告

当社の環境広告は外部の方々より高い評価をいただいています。

第12回 中日新聞広告賞 「優秀賞」

中日新聞広告賞は読者による一次審査と専門家による二次審査によって選ばれる広告賞で、「暮らしに役立つ情報が得られる」「話題性・社会性がある」といった審査基準の他に、表現上の完成度や情報の量・質といった点について考慮され「炎は消えた」篇は「優秀賞」を受賞しました。



「炎は消えた」篇

環境報告書・サステナビリティレポート

2001年度から環境報告書を毎年発行し、環境への取り組みについて情報開示を行ってきました。また、より多くの方に読んでいただけるように、2002年度からはダイジェスト版「グリーンレポート」の発行も開始しました。

2004年度からは、企業と社会の持続的発展 (Sustainable Development) に向けた企業活動に関する情報を総合的に開示していくため、従来の「環境報告書」を「サステナビリティレポート」にリニューアルし、環境に加え、その他の側

面についても情報を充実させました。なお、経済活動については、アニュアル・レポート、有価証券報告書、営業報告書、事業報告書などで詳細をお伝えしています。

また、コスモ・ザ・カード「エコ」会員とともに進めている環境貢献活動については、年度活動報告書「コスモ・ザ・カード「エコ」活動報告書」を発行しています。

これらの報告書はホームページにも掲載されています。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/publish/index.html>

People's Voice



赤松 邦春
コーポレートコミュニケーション部長

「積極的な情報開示が重要」

コスモ石油グループはその経営理念に基づき、CSR経営の一環として地球や社会との「調和と共生」を図り、持続可能な社会をめざす様々な環境への取り組みを事業内外で実施しています。

地球環境保全のために一企業グループができることは人や資金のリソースの点から限界があるため、私たちはできるだけ多くの人や組織と力をあわせてこの困難な取り組みを進めたいと考えています。そのために、地球環境に今実際に何が起きているかのほんの一例にすぎませんが、私たちが取り組んでいるプロジェクトの現状などを社会に広く、的確かつタイムリーにお伝えしていくことがその一助となると考え、環境コミュニケーションを積極的に進めています。

また社会との関係では、企業倫理やコンプライアンスなどという基本的な分野に加えて、社会的ニーズを積極的に満たしていく付加価値的な分野も視野に入れた事業活動を行っています。私たちはこれらすべての分野において積極的な情報開示が重要と認識しており、このサステナビリティレポートを発行しました。今後もステークホルダーの皆様方と双方向のコミュニケーションをさらに進め、皆様方とともに「ココロも満タンに」「ずっと地球で暮らせる」ように努力していきたいと考えています。

Kuniharu Akamatsu